



投資環境

2022年8月30日

市場とFRBの乖離は縮小も、期待はわずかに残る

□ インフレを抑え込むまで金融引締めを継続

注目されたジャクソンホール会議での8月26日の講演で、パウエル米連邦準備制度理事会(FRB)議長は、労働市場が縮小し、家計や企業にもたらす痛みを伴っても、インフレを抑え込むまで利上げを継続し、政策金利を高水準で維持する考えを示しました。

また、歴史は時期尚早な金融緩和を強く戒めているとし、利上げの行き過ぎや景気悪化に配慮して早めに利下げに転じるとの市場の期待(楽観)が打ち消された格好となり、26日にはNYダウは1,000ドルを超える大幅下落となりました(図表1)。

□ まだ、利下げへの期待はくすぶる

ただ、米金融市場では、2023年前半までは利上げを継続も、後半には利下げもあり得るとの期待はまだまだくすぶっています(図表2)。

投資家の市場心理を表し恐怖指数とも呼ばれるVIX指数は、不安心理が高まっているとされる20を上回り、26ポイント台まで上昇していますが、FRBが金融引締めを急ぐとの警戒が強まった6月の米連邦公開市場委員会(FOMC)前後の30ポイントには届いておらず、警戒も限定的となっています。

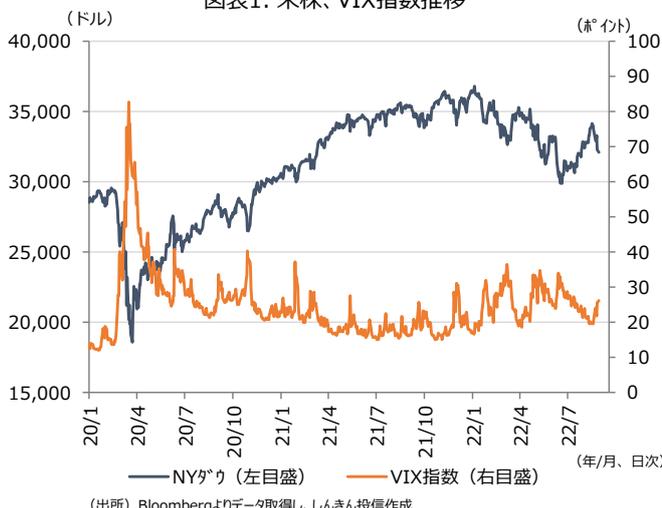
□ 9月のFOMCで期待がさらに打ち消される可能性も

9月のFOMC(20-21日)で公表される政策金利見通しの水準が引き上げられると、2023年中の利下げ観測が大きく後退し、金融引締めが長期化するとの見方が一段と強まる可能性があります。わずかに残っている市場に優しいFRBへの期待(市場に配慮した金融政策運営への期待)が打ち消され、米金融市場が不安定な動きになることには注意が必要です。

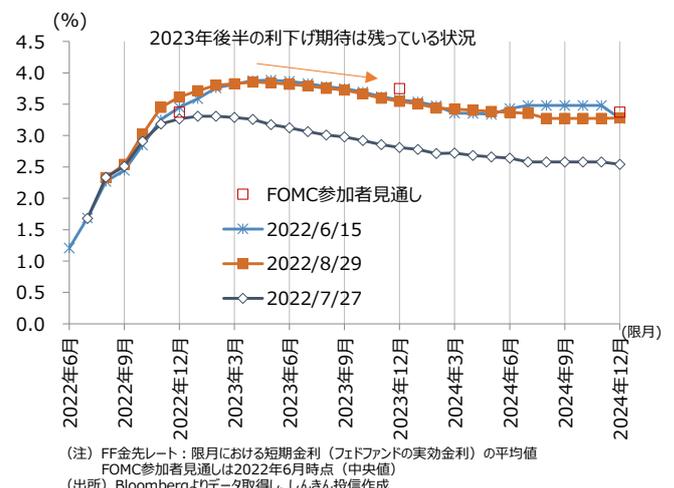
米短期金融市場では9月のFOMCで、3会合連続で0.75%の大幅利上げが決定される確率が7割程度まで上昇しています。しばらくは、米雇用統計や消費者物価指数などの経済指標を確認しながら、9月のFOMCでの利上げ幅やその後の利上げペースを占っていくことになります。

また、9月から縮小額が月475億ドルから月950億ドルに倍増される量的引締め(米国債などの保有資産の圧縮)の影響(緩和マネーの圧縮、米国債市場の需給)も確認したいところです。

図表1. 米株、VIX指数推移



図表2. FF金利先物レート



(シニアストラテジスト 鈴木和仁)



**しんきんアセットマネジメント投信株式会社** 金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第338号  
**Shinkin Asset Management Co., Ltd** 加入協会／一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会  
 〒104-0031東京都中央区京橋3丁目8番1号 URL: [https:// www.skam.co.jp](https://www.skam.co.jp)

＜本資料に関してご留意していただきたい事項＞

- ※本資料は、ご投資家の皆様に投資判断の参考となる情報の提供を目的として、しんきんアセットマネジメント投信株式会社が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。
- ※本資料は、信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。また、いかなるデータも過去のものであり、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。
- ※本資料の内容は、当社の見解を示しているに過ぎず、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。記載内容は作成時点のものであり、予告なく変更する場合があります。
- ※投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の補償の対象ではありません。また、金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。
- ※投資信託は、値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益はすべて投資者の皆様に帰属します。
- ※特定ファンドの取得のお申込みに当たっては、販売会社より当該ファンドの投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ又は同時にお渡しいたしますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。また、請求目論見書については、販売会社にご請求いただければ、当該販売会社を通じて交付いたします。

【お申込みに際しての留意事項】

■ 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式や債券等の値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益はすべて投資者の皆様に帰属します。

また、投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

■ 投資信託に係る費用について

（お客様に直接ご負担いただく費用）

- ◆ ご購入時の費用・・・購入時手数料 上限 3.3%(税抜 3.0%)
- ◆ ご換金時の費用・・・信託財産留保額 上限 0.3%

（保有期間中に間接的にご負担いただく費用）

- ◆ 運用管理費用（信託報酬）・・・純資産総額に対して、上限年率 1.628%(税抜年率 1.48%)
- ◆ その他の費用・・・監査費用、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、有価証券売買時の売買手数料等および外貨建資産の保管等に要する費用は、ファンドより実費として間接的にご負担いただきます。また、投資信託証券を組み入れる場合には、お客様が間接的に支払う費用として、当該ファンドの資産から支払われる運用管理費用、投資資産の取引費用等が発生します。これらの費用につきましては、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。投資信託に係る上記費用（手数料等）の合計額については、ご投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、しんきんアセットマネジメント投信が運用する全ての投資信託のうち、ご負担いただくそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資される際には、事前に投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をよくお読みください。

- ※本資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。